

20th ミュージックフェスティバル2017 広瀬のひびき

Swing & Harmony

レポート

20回目のドラマを終えて

「広瀬のひびき」は、宮城地区の“文化的広がり”や“人と人とのつながり”を創り出し、この地域における芸術・文化の向上と交流を図ることを目指して始まった音楽イベントです。

これまでの総出演者数6,850人、総来場者数17,780人、実行委員会と広瀬文化センターの協力による市民手づくりの音楽祭として毎年、様々なドラマを生み出してきた“ひびき”もついに20回目を迎えました。

20回の歴史を刻んだのは、手づくりでありながら、演じる側の真剣な汗と涙が見え、質の高い音楽を楽しめること。そして、「近所の〇〇くんが出ているよ♪」と言ったコンクールには無い親しみやすさや笑い、誰でも気軽に楽しめると言った、広瀬のひびきらしい音楽の楽しみ方が伝わり、この音楽祭は地域に根付いてきたからではないでしょうか。

毎年、様々なドラマを生み出してきた広瀬のひびきですが、20回目の今年も“ひびき”らしい感動を垣間見る瞬間がたくさんありました。感動の場面をお伝えします。



学校法人 愛子学園 大沢幼稚園

1 ともだちはいいもんだ 2 365日の紙飛行機

オープニングを飾るのは大沢幼稚園の年長さん、うさぎ組とりす組の皆さん45名です。友達とのつながりを大切に過ごしてきた皆さん。そんな友達への思いを込めて、「ともだちはいいもんだ」と「365日の紙飛行機」を歌っていただきました。元気いっぱい可愛い歌声に、観客の皆さんの表情はほころび、あちらこちらでステージに手を振る姿が見られました。4月からはピカピカの1年生。とても素敵な幼稚園の思い出になったのではないのでしょうか。



楽しいときも、悲しい時もいつも友達がそばにいてくれました。その思いを込めて歌います。



仙台市立愛子小学校5年生

1 明日へつなぐもの

愛子小学校には、昨年に引き続き5年生全員で「明日へつなぐもの」を歌っていただきました。何気ない日常のなか、限りある時間とともに過ごす私達。互いを大切に思いやり、かけがえのない思い出をたくさん創りながら歩いて行こうという気持ちを込めて、そして、この想いが皆さんに伝わるよう歌い上げました。



健やかな歌声とともに、みんなの想いが観客の皆さんに伝わったようです。



仙台高等専門学校広瀬キャンパス 合唱班

1 瑠璃色の地球 2 冬のメドレー

吹奏楽部の有志により活動する仙台高等専門学校広瀬キャンパス合唱班。昨年12月に開催した吹奏楽部との合同演奏会で披露した「瑠璃色の地球」と「冬のメドレー」の2曲を歌っていただきました。観客の皆さんも、少人数ながら落ち着いた大人のハーモニーを堪能していました。



冬の雰囲気にとりあわせた澄んだハーモニー。



仙台市立錦ヶ丘小学校5年生

- 1 少年少女のための合唱組曲「祭り子ども」から「雪の祭」
- 2 仙台市立錦ヶ丘小学校校歌

昨年4月に開校したばかりの新しい学校、錦ヶ丘小学校5年生の皆さん。本日は「雪の祭り」と「校歌」の2曲を歌っていただきました。特に「校歌」は、子ども・保護者・職員・地域の方など錦ヶ丘小学校に関わる方々で協力して作ったもので、みんなの思いや願いがたくさん込められた自慢の校歌とのことです。



みんなの思いが込められた自慢の校歌。美しいハーモニーで心を打ちます。

仙台市立広瀬中学校 合唱部

- 1 空と海 2 Suomen laulu 3 愛を込めて花束を

毎年、美しい歌声を聴かせてくれる広瀬中学校合唱部の皆さん。昨年9月には全日本合唱コンクール東北大会に出場を果たし、また、今年2月12日には、ここ、広瀬文化センターで開催の「第28回宮城県合唱アンサンブルコンテスト」にも出場。聖歌隊のような美しいアカペラ「空と海」で始まり、人気のポップソング「心を込めて花束を」などバラエティーに富んだ3曲を披露し、心が洗われるような澄んだハーモニーが会場に響きわたっていました。



心を洗われるような美しいハーモニー。

ひろせ合唱の会

- 1 雪むろ 2 月の砂漠 3 Gli aranciolezzano オレンジは香り

約17年前、仙台市西部の合唱団15団体、約300名の会員が一つになったひろせ合唱の会。20回目の合唱編の締めくくりは、「東北歌の本」から「雪むろ」。そして、オペラ作品「カヴァレリア・ルステイカーナ」から「オレンジの花は香り」などを総勢70余名で歌い上げました。広瀬文化センターを拠点に、20年近くにわたって練習を重ね、磨き抜かれ完成した混声合唱に多くの方が感動していました。



年輪を刻み完成された歌声に、誰もが感動しています。

全体合唱

1 カッパダ川 2 Let's Search For Tomorrow

(レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー)

地域を流れる小川を題材として、作詞・作曲とも地元の方から募集してつくられた「カッパダ川」。合唱編のラストには欠かせません。また、カッパダ川に加え、今年は「Let's Search For Tomorrow」の2曲を、合唱編の出演者と会場の皆さんで歌いました。ついに20回目を迎えた広瀬のひびきで、ホールに響き渡る皆さんの声は、元気で美しく、合唱編の最後を大いに盛り上げました。





司会 宮城県宮城広瀬高等学校 放送部

今年も司会は、宮城広瀬高校放送部の皆さんです。明るい声と笑顔、そして、絶妙なコンビネーションで。合唱編・合奏編ともに、「広瀬のひびき」全体を盛り上げてくれました。ありがとうございました。



明るい声と笑顔で出演者を紹介。
幼稚園のかわいい合唱には明るい気持ちになりました。

仙台市立広陵中学校 ギター部

1 イタリアーナ 2 荒城の月 3 上をむいて歩こう

合奏編のトップバッターは、県内で唯一の中学生クラシックギター部として活動する広陵中学校ギター部の皆さん。クラシックの組曲から「イタリアーナ」の演奏で始まり、和洋折衷の3曲を演奏しました。5人が奏でるメロディは、小さくささやかな演奏ですが、一つ一つの音色に心が込められた温かい演奏でした。



黒で統一したシックな衣装が印象的。静かで上品な音色をつま弾きます。



仙台市立折立中学校 吹奏楽部

1 ドラゴンクエストメドレー 2 チェリー 3 崖の上のポニョ

12名の部員で活動する折立中学校吹奏楽部。普段は、吹奏楽の音楽活動を通じて、礼節などの面においても向上に努めているそうです。本日は、人気ゲームソフトのテーマ曲や皆さんが大好きなポピュラーソング、そして、ジブリ映画のテーマ曲とお馴染みの曲を演奏しました。「崖の上のポニョ」の演奏では振りつけ付きで演奏し、観客席は手拍子でいっぱいの盛り上がりとなりました。



現在の課題は表現力を高めること。
メニューを工夫して折中サウンドを届けます。

仙台市立大沢中学校 吹奏楽部

1 アンパンマンのマーチ 2 キセキ 3 ジブリ・コレクションVol2

地域でのお祭りなどで積極的に演奏し活躍する大沢中学校吹奏楽部。今年9月には広瀬文化センター開館25周年を記念して開催したジャズコンサートにも出演していただきました。本日は「アンパンマンのマーチ」など、誰もが耳にしたことがある曲を元気に演奏。3曲目のジブリ・コレクションでは、ユーフォニアムのソロの見事な演奏に観客の皆さんは聴き入っていました。



小人数ですが、いつも仲の良い部員の演奏コンビネーションは最高です。

仙台高等専門学校広瀬キャンパス 吹奏楽部

1 百年祭 2 雨のち晴レルヤ

今年も落ち着いた演奏を聴かせてくれた仙台高等専門学校広瀬キャンパス吹奏楽部。1曲目は、ゆるやかなクラリネットソロから始まり、徐々に楽器が増え変拍子などを経て最後は再びゆるやかな演奏に戻り、まるで100年の時の流れをなぞるような曲「百年祭」。続く2曲目の「雨のち晴レルヤ」は、指揮者の鈴木先生のお気に入りの曲だそうです。間奏に有名なクラシックのフレーズが使われているとのこと。皆さん、お気づきでしたでしょうか？



しっとり、そして快活に、落ち着いた大人の演奏を披露してくれました。

仙台市立広瀬中学校 吹奏楽部

- 1 sing sing sing 2 宝島 3 オーメンズ・オブ・ラブ

今年もマーチングコンテスト全国大会に出場するなど、大活躍の広瀬中学校吹奏楽部。オープニングは、伝統的に演奏している「sing sing sing」。ジャズのスタンダードで皆さんを惹きつけます。インフルエンザが流行し、前日、急に出場できなくなったドラマーの代役として、宮城広瀬高校の先輩が名乗りを上げてくれました。こんなところも地域でつながるこのコンサートらしい素敵なお一つの場面ではないでしょうか。



心強い助っ人現る！ほとんど初めてで叩ききりました！

宮城県宮城広瀬高等学校 吹奏楽部

- 1 Courageous Knights
- 2 広瀬オリジナルメドレー

合奏編の最後を飾るのは宮城広瀬高等学校吹奏楽部。テーマ曲「Courageous Knights」で幕を開けたステージは、ハイレベルな演奏に全ての観客が引き込まれました。アンケートでも毎年「楽しみにしている」という声が大変多い「広瀬オリジナルメドレー」へと続きます。今年は、寄席のテレビ番組「笑点」をモチーフにした「広点」(!?)の小噺と寸劇を盛り込み、「恋ダンス」を披露するなど、演奏に新しい流行を取り入れた巧みな演出で大いに盛り上がりました。





毎年ファンの多い「広瀬オリジナルメドレー」のパフォーマンス。
今年も「わかりやすくて大面白かった。」と好評の「広点」。



楽しいパフォーマンスを支えるのはしっかりとした演奏です。客席の皆さんも大盛り上がり。



フィナーレ

エル・クンバンチェロ

フィナーレは恒例の「エル・クンバンチェロ」。プエルトリコの作曲家、ラファエル・エルナンデスの書いたサンバの代表曲で、通りを踊り歩くお祭りの風景を表現しています。残念ながらインフルエンザ流行の影響で一部欠場はありましたが、圧巻の楽団が創り出すサウンドの感動は、世代や地域、立場、すべてのものを超え、観客をも巻き込んでホール全体が一つの“お祭り広場”と化した、20回目の最後に相応しい賑わいでした。



音楽を通じて、子どもから大人まで、地域みんなが心ひとつになれるのが“ひびき”の良さ。



フィナーレでは、すべての出演者が、観客が、そして会場が一体となって、感動のメロディを響かせました。



総勢50名が奏でる圧倒的なサウンドは、感動的に20回目のひびきを締めくり、拍手が鳴りやみませんでした。

司会 宮城県宮城広瀬高等学校 放送部

第二部合奏編の司会も宮城広瀬高校放送部です。幕間を利用して、出演者の皆さんの練習風景や演奏会の様子などのビデオ上映を行いました。映像に合わせて上手に団体紹介を行いながらステージをつないでもらいました。長い時間お疲れ様でした！



緊張しながらも、ハキハキとした声で見事な進行でした。

広瀬のひびきボランティアスタッフ

広瀬のひびきは、ボランティアスタッフの皆さんの協力無しには運営できません。司会や受付、そして舞台運営など、縁の下の力持ちとして、今年も様々な協力をいただき誠にありがとうございました。



会場案内を行う、仙台高等専門学校広瀬キャンパスの皆さん。お客様を笑顔で出迎えます。



記録映像の撮影を行う「ふおるていお」の皆さん。観客としてもお楽しみいただけたでしょうか。



舞台の準備や転換、片づけを行ってくれた宮城広瀬高等学校吹奏楽部の皆さん。吹奏楽編では、素早い転換が重要です。自らの出演も含め手際よくステージをさばきます。



ご来場いただいたお客様へ

述べ1,400人のお客様にご来場いただきました。当日は寒いなか、広瀬のひびきをご覧にいらしていただき、また、出演者へのたくさんの拍手や温かい励ましのお言葉をありがとうございました。



続々と客席が埋まっていきます。



開催後のアンケートのコメントでは、「宮城地区の宝。これからも続けて欲しい。」という嬉しいお言葉も頂戴しました。

「広瀬のひびき」20回記念写真展

20回目を記念したプレ企画として、開催約2週間前の1月17日（火）から広瀬文化センター1階ロビーにおいて、「広瀬のひびき写真展」を開催しました。開催回毎の写真に、初じめて企画した頃から過去19回の出来事・トピックをまとめたキャプションを添え、“ひびき”を丸ごと楽しめる内容にした写真展に、多くのお客様が足をとめてご覧になりました。



20回の一つ一つに、それぞれのドラマがありました。



2006年度の吹奏楽編は映像でお楽しみいただきました。



ご覧になったお客様のなかには、自分の出演写真を懐かしく楽しまれた方もいらしたようです。